

東京電力福島第一原子力発電所等の視察結果報告

令和6年10月
資源エネルギー庁

東京電力福島第一原子力発電所等の視察結果報告

1. 日時

令和6年9月20日（金）

2. 参加委員

隅 修三 分科会長（東京海上日動火災保険株式会社 相談役）

澤田 純 委員（日本電信電話株式会社 取締役会長）

3. 視察行程

視察先	内容
東京電力廃炉資料館	<ul style="list-style-type: none">震災・原子力災害の全容説明廃炉の現状説明
東京電力福島第一原子力発電所	<ul style="list-style-type: none">構内視察（1～4号機原子炉建屋、既設多核種除去設備、増設多核種除去設備、K4タンクエリア、海側設備俯瞰等）
中間貯蔵施設	<ul style="list-style-type: none">土壌貯蔵施設を中心に見学
帰還困難区域（大熊町・双葉町）	<ul style="list-style-type: none">帰還困難区域（居住エリア、山林エリア等）町復興状況についての説明

オンサイト視察の様子

1～4号機側の高台



廃炉作業の進捗について聴取



2号機建屋



本年9月より、燃料デブリの試験的取り出しに着手

既設多核種除去設備（既設ALPS）



発生した汚染水を前処理したのち、トリチウム以外の放射性物質を規制基準を満たすまで浄化処理

ALPS処理水放出先海域

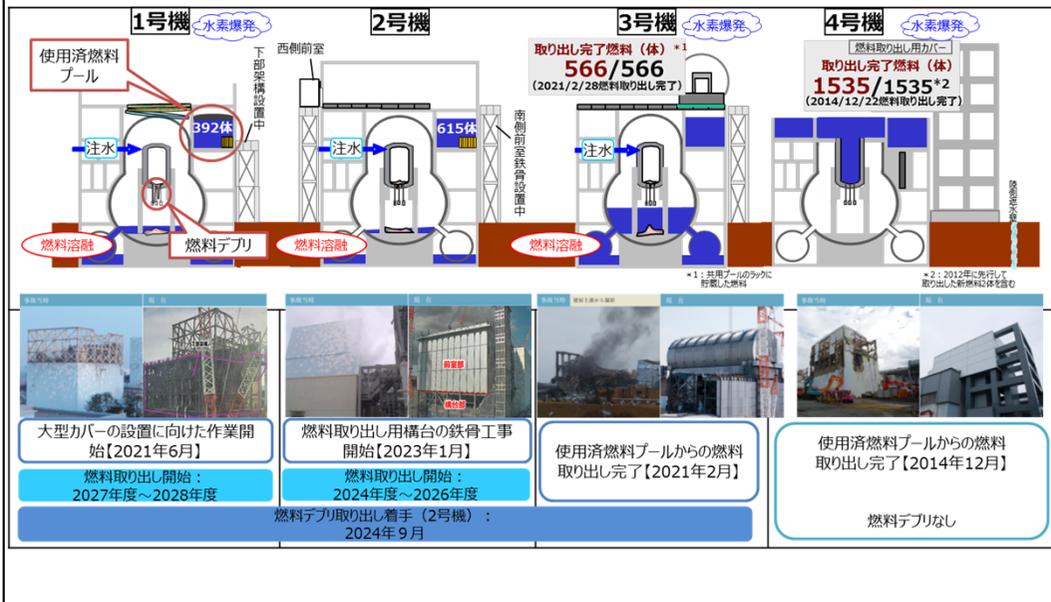


ALPS処理水を海水で希釈し、沖合1kmに放出

(参考) 東京電力福島第一原子力発電所の現状

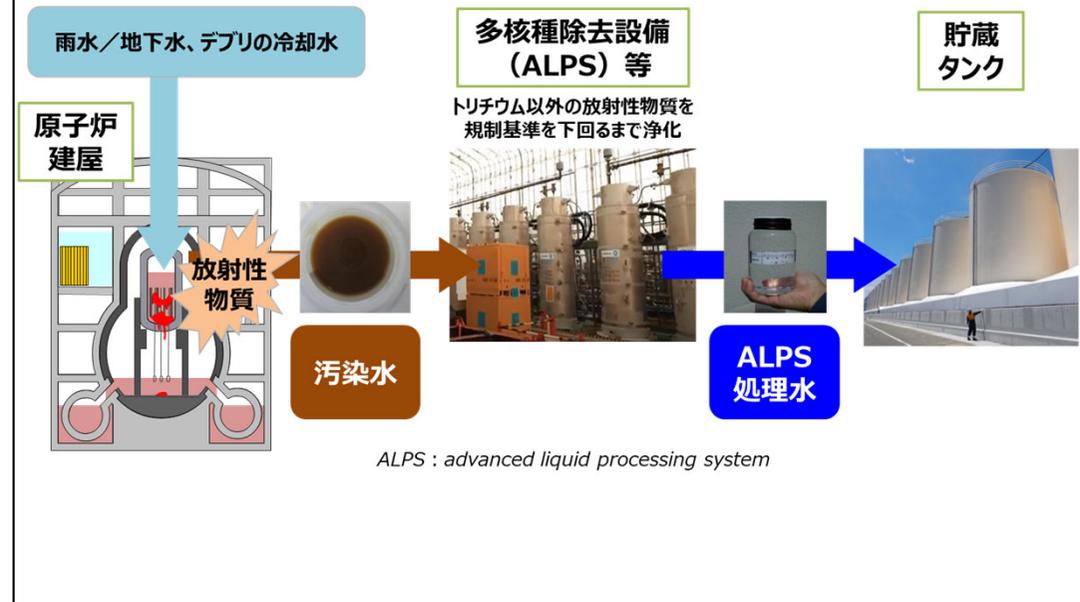
1～4号機原子炉建屋の現状

- 1・2号機は、使用済燃料プール内の燃料取り出しに向けた準備作業中（オペレーティングフロアのガレキ撤去等）。3号機は、2021年2月に使用済燃料プールからの燃料取り出しを完了。
- 事故時に溶けて固まった燃料（燃料デブリ）について、まず2号機で試験的取り出しに着手（2024年9月）。

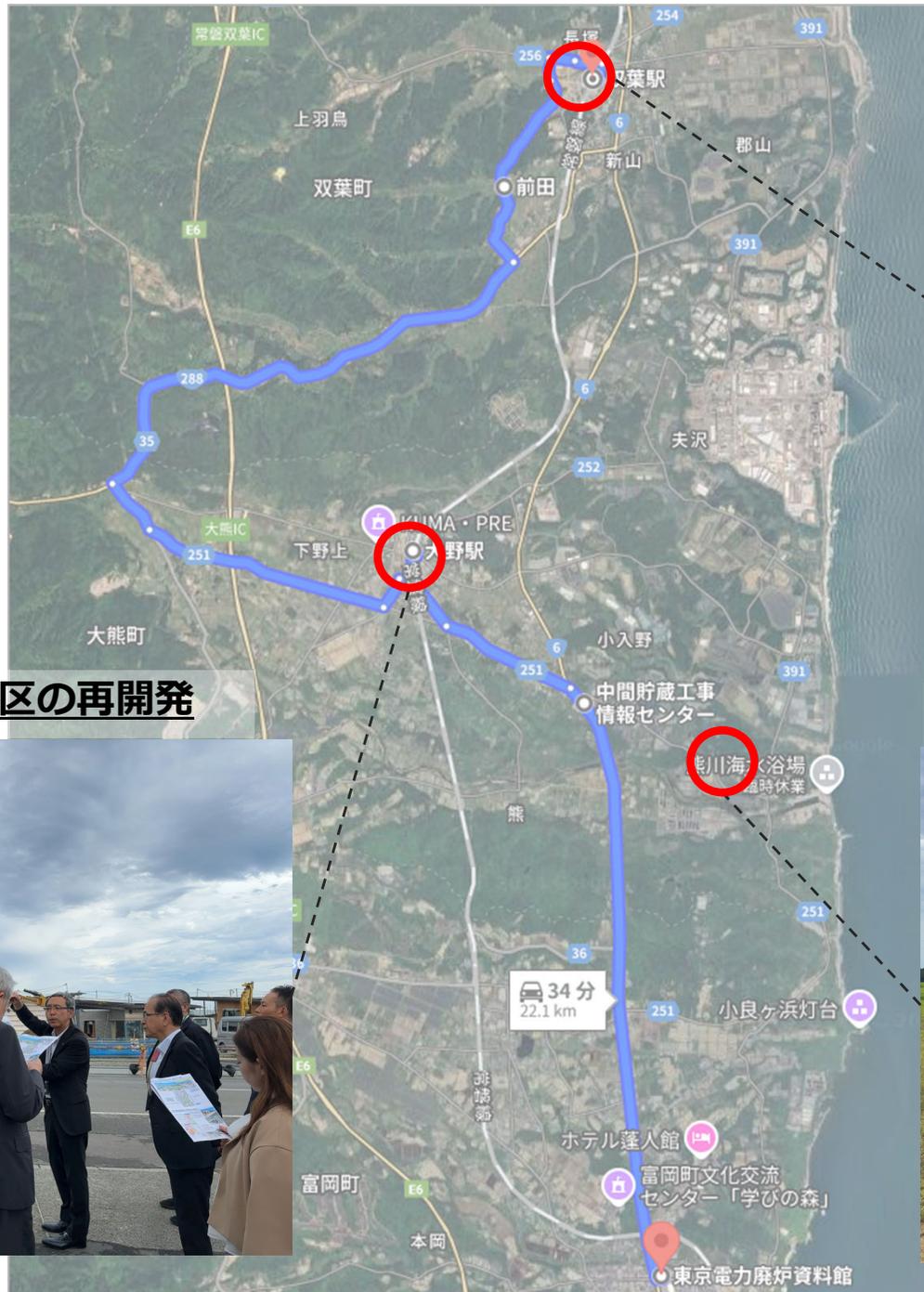


ALPS処理水海洋放出

- 事故で発生した放射性物質を含む**汚染水を浄化し、トリチウム以外の放射性物質を規制基準を満たすまで浄化処理**した水が「ALPS処理水」。
- 敷地内の貯蔵タンクの数**は1,000基を超え、敷地を圧迫。廃炉を計画的に進めるための敷地の確保に支障が生じかねない状況。**
- 2023年8月、ALPS処理水の海洋放出を開始。



オフサイト視察の様子



双葉町・双葉駅西の住宅団地整備



大熊町・大野駅西地区の再開発



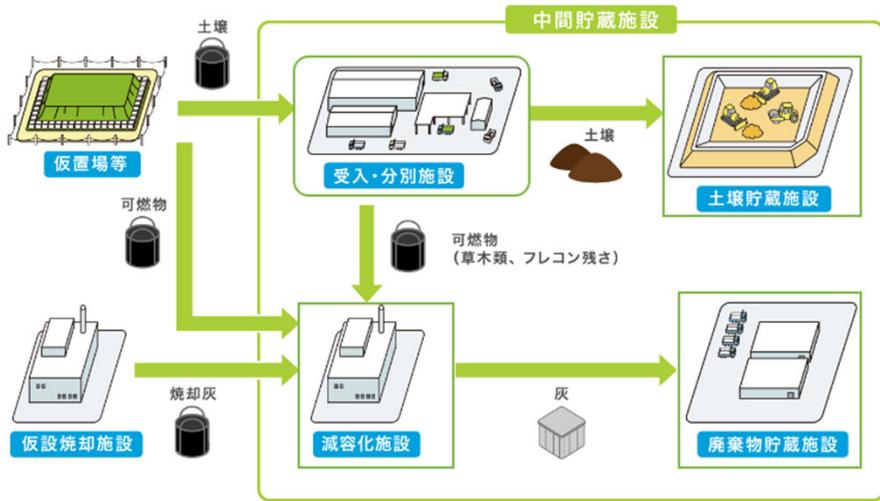
中間貯蔵施設（土壌貯蔵施設）



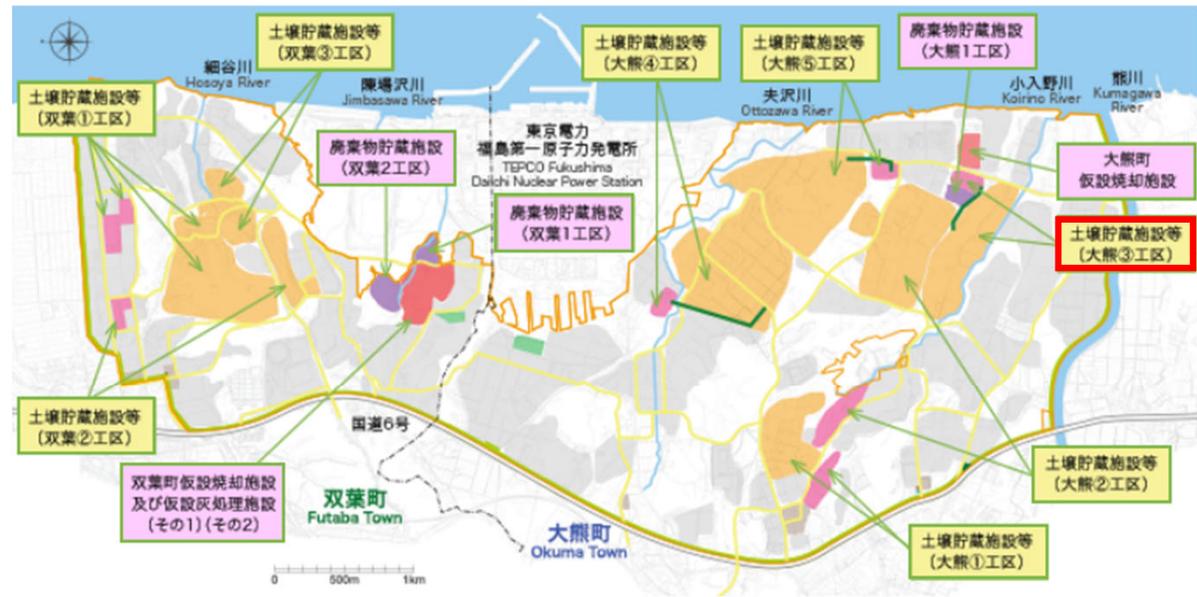
(参考) 中間貯蔵施設の概要

- 中間貯蔵施設は、福島県内の除染に伴い発生した土壌や廃棄物等を最終処分までの間、安全に集中的に貯蔵する施設。2024年8月末時点で、累積約1,393万³m³の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を搬入（うち、大熊町約82.1万³m³、双葉町約44.8万³m³）。

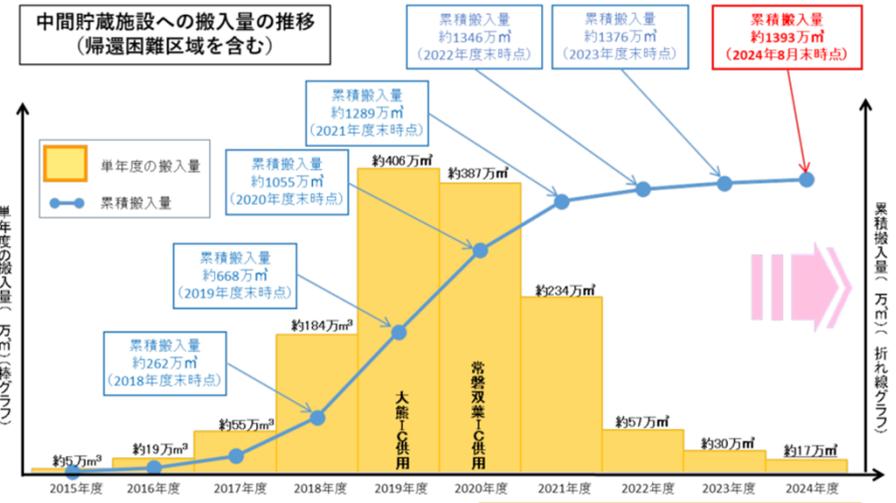
中間貯蔵施設の概要



中間貯蔵施設の配置



中間貯蔵施設への搬入量の推移 (帰還困難区域を含む)



※区域別の累積搬入量(2024年7月末時点)
 累積搬入量全体：約1393万³m³
 うち特定復興再生拠点区域由来の搬入量：約144万³m³
 特定帰還居住区域由来の搬入量：約560³m³

中間貯蔵施設への搬入量の推移

(参考) 避難指示解除に向けた取組状況

- 避難指示解除により住民帰還を目指す「特定復興再生拠点区域」の避難指示を2023年までにすべて解除。2023年6月に「特定帰還居住区域」制度を創設。
- 2024年4月までに大熊町・双葉町・浪江町・富岡町の4町における「特定帰還居住区域復興再生計画」を認定。今後、除染・インフラ整備等の避難指示解除に向けた取組を進めていく。

避難指示区域 (2024年4月)



除染作業 (双葉町長塚地区)



建物解体作業 (大熊町新町地区)

